

那須塩原駅周辺まちづくりビジョン

サブタイトル

那須塩原市 企画部 那須塩原駅周辺整備室

(2020. 12. Ver)

-目次-

【プロローグ】 -まちづくりについて考えた- ある父と娘の会話

■ はじめに	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定に当たり	1
■ 第 1 章	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの位置付け	2
1-1	策定の背景と目的	2
(1)	ビジョン策定の背景	2
(2)	ビジョン策定の目的	3
1-2	ビジョンの効果と成果イメージ	3
1-3	ビジョンの位置づけ	4
■ 第 2 章	那須塩原駅周辺の現状と課題	5
2-1	那須塩原駅周辺整備の現状	5
(1)	那須塩原市の人口の推移（令和 22 年度まで）	5
(2)	土地利用の状況	6
2-2	那須塩原駅周の課題	7
■ 第 3 章	ビジョンの基本コンセプト（目指すべきまちづくり）	8
■ 第 4 章	ビジョンプロジェクト（基本コンセプトの構成要素）	9
	V i s i o n 1 - 市民が中心となり魅力を発信	9
	V i s i o n 2 - 歴史を活かしたまちづくり	11
	V i s i o n 3 - 景観を前面に押し出した駅前の在り方	13
	V i s i o n 4 - テクノロジーの活用	15
	V i s i o n 5 - 那須塩原市役所の新庁舎	17
	V i s i o n 6 - 高い将来性と可能性	19
	V i s i o n 7 - まちづくりはひとづくりから	21
■ 第 5 章	プロジェクトの実現に向けて	23
5-1	スケジュール（ロードマップ）	23
5-2	ビジョンの具体化に向けた方向性	24
■ 第 6 章	ビジョン策定に当たっての市民参画の経緯	25
6-1	ビジョン策定までの経緯	25
6-2	市民参画の状況	26
■ 結 び に	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定を終えて	29
■ 附 属 資 料		
(1)	那須塩原駅周辺整備市民懇談会委員名簿	
(2)	有識者会議メンバー名簿	
(3)	宇都宮大学地域演習プロジェクトメンバー名簿	
(4)	宇都宮大学共同研究メンバー名簿	
(5)	アンケート調査結果【抜粋】	
(6)	グループインタビューの様子	

ある休日の夜

高校生のなおは父とその日の出来事について話していました。

なお

ただいま。

お帰り、友達と遊びに行ったんだろ？楽しかったか？

父

楽しかったよ！たくさん買い物しちゃった！

あっそういえば、那須塩原駅で友達を待っている時、担任の先生に会ったよ。

へー、お出かけが？

ううん、出張って言ってた。でも早く着いたのに時間を潰せる場所がなくって暇

だって言っててさ、カフェとか欲しいですよねって話で盛り上がったんだ。

確かに、駅周辺はそういう場所が少ないからな。

私は大きなデパートとかが欲しいって言ったんだけど、先生は駅に『那須塩原らしさ』が感じられる物が欲しいって言っててね、お父さんはどう思う？

なるほど、観光客には『らしさ』を感じられる場所があると良いのかもなあ。

そっか。私はそんな事考えたこともなかったから、年齢とか職業によって色々な意見があるんだって驚いたよ。

駅や駅の周りはそこに住んでいる人だけじゃなくて、観光客やサラリーマン、高校生や高齢者、使う人それぞれに色々な意味を持っていて、地域を象徴する大切な場所だってことだね。

色んな人が使う大切な場所だからこそ、活気があった方がいいよね！

でも、どうしたら盛り上がるんだろう？

市役所でも色々考えているみたいだけど、なおはどう思う？

うーん、じゃあ市役所とか大人に任せていけばいいのかな？

でも、なおが感じたみたいに、年齢や職業によって色々な意見があるんだから、色々な人達が関わった方が盛り上がると思わないかい？

私の意見で駅の周りをもっと楽しくなっていったらとっても嬉しいかも！

そうだな。それじゃ、なおが『こんな風になったらいいな』って思う未来が描かれているか、まずはこの冊子を読んでごらん。この中には、30年後の那須塩原駅周辺がどうなっていたら良いか書いてあるから。

なおが、考えている未来が描かれていると良いね。

あなたの描く那須塩原駅周辺の未来は
どんな未来ですか？

持続可能なエリアの実現をめざして

那須塩原市は、心豊かな人々が暮らし、美しい自然に恵まれた高原都市として、基幹産業である農業や観光業を中心に、商業、工業など多様な産業が営まれるとともに、国道4号、東北縦貫自動車道といった道路やJR東北本線、東北新幹線といった鉄道が通る交通の要衝にあるなど、恵まれた環境を背景にこれまで一步一步、しっかりと発展の歩みを進めてまいりました。

市長写真

しかしながら、近年の社会情勢・社会環境に目を向ければ、少子高齢化に伴う人口減少や人的資源の枯渇、地球温暖化などに起因する気候変動、大規模化・激甚化し頻発する自然災害、そして新型コロナウイルス（COVID19）感染症の出現等、私たちを取り巻く環境はより過酷ものになりつつあり、社会全体が大きな変革の潮流の中にあることを感じざるを得ません。

こうした状況を一つの背景に、市といたしましても、改めてまちづくりの未来を考える中において今後の市政発展の要ともいえるべき、那須塩原駅周辺の30年後の在るべき姿、目指すべきまちづくりを描く『那須塩原駅周辺まちづくりビジョン』を策定することといたしました。

策定に当たっては、各種関係団体から推薦された市民の皆様で構成される「まちづくりビジョン市民懇談会」や、まちづくりなどに関する有識者の皆様による「まちづくりビジョン有識者会議」をはじめ、2,000名の市民の皆様や、30年後の那須塩原市の担う高校生の皆さんを対象とした「アンケート調査」、また、初めての試みとして行いました「オンラインによるワークショップ」、少人数でまちづくりに対する夢や想いを語り合う「グループインタビュー」、国立大学法人 宇都宮大学との「那須塩原駅周辺のまちづくりに関する共同研究」など、様々な市民参画のプロセスを経ながら、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する沢山の夢や想い、御意見、御提言をいただくことが出来ました。

本当にありがとうございました。

このビジョンでは、30年後の那須塩原駅周辺の未来を描いてまいります。

これからの那須塩原駅周辺が皆様御自身はもちろん、皆様のお子様や御家族にとって「夢」や「想い」が形づくられたものとなるよう、そして那須塩原市、栃木県北の玄関口として、新たな時代にふさわしい、持続可能（サステナブル）なまちづくりのモデルエリアとなるよう、このビジョンの着実な実現と、駅周辺の更なる発展にしっかりと取り組んでまいります。

結びに、ビジョンの策定に当たり御意見、御協力を賜りました市民の皆様をはじめ、関係各位に対し改めて衷心より感謝申し上げます。

令和3（2021）年3月

那須塩原市長 渡辺 美知太郎

動画配信用
QRコード

■ 第1章 那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの位置付け

1-1 策定の背景と目的

(1) ビジョン策定の背景

那須塩原駅周辺は、これまでも那須塩原市の玄関口としてのみならず、栃木県北・那須地域への玄関口として、このエリアの持つ意義・役割の重要性から、区画整理事業を進めるなど様々な施策が展開されてきました。

しかしながら、JR東北新幹線の開通（昭和57【1982】年）から40年以上経過するも思うような開発は進んでおらず、周辺エリアに駐車場が散在することに表れているように、人々や地域の賑わいに乏しく、東京圏から1時間圏内にあるといった地理的な優位性など、このエリアが有するポテンシャルが十分に発揮されていない現状にあります。

一方、日本社会全体に目を向けると、少子高齢化・人口減少の流れは変わらず、那須塩原市も10年前の平成22（2010）年をピークに、今後も減少の流れが続いていくものと推測されており、こうした少子高齢化、人口減少による人的資源の減少・枯渇は、社会構造や社会経済に多大な影響を与えるものであり、地域社会の維持継続のためにも、出来る限り早期に対策を講ずることが求められています。

また、時代の変遷と共に人々のライフスタイルも多様化してきていますが、今般の新型コロナウイルス（COVID-19）の出現に伴い「在宅勤務」や「Web会議」等のリモートワークといった新たな働き方が定着しつつあるほか、国においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）が推進されるなど、「働き方」そのものが大きな転換期を迎えつつあります。

加えて、大規模化・甚大化する自然災害を経験する中、人々の防災に対する意識は更なる高まりを見せており、安全・安心な都市構造の構築、防災力の強化といった要素はこれからのまちづくりを考える上で、欠かすことのできない重要なものとなっています。

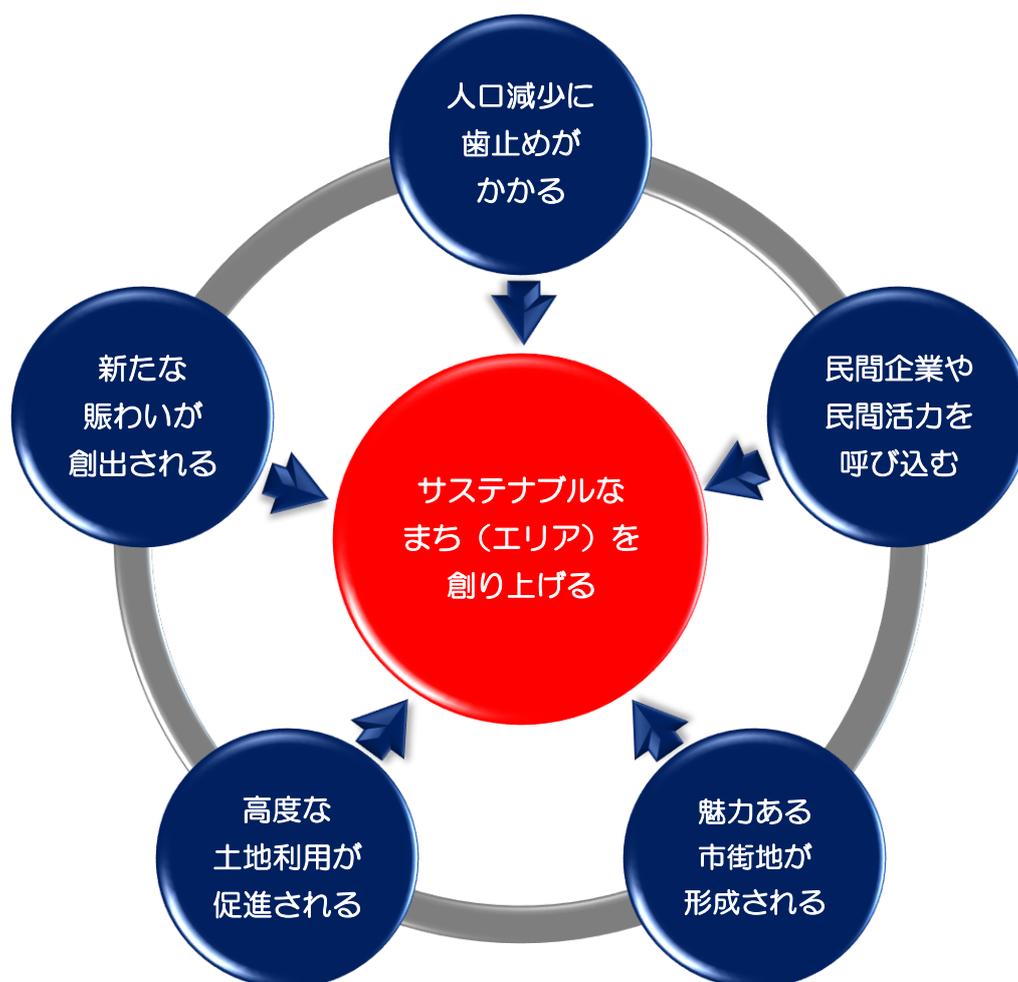
このような那須塩原駅周辺の実態、そして社会環境・時代の変革を背景に、今後、那須塩原市が持続可能なまちづくりを進めていく上で、那須塩原駅周辺の整備・開発はそのモデルとなり得るべき取組と捉え、ここに『那須塩原駅周辺まちづくりビジョン』を描くことといたしました。

(2) ビジョン策定の目的

今回策定する那須塩原駅周辺まちづくりビジョン（以下「ビジョン」という。）は、那須塩原駅周辺の実情を踏まえ、令和元（2019）年度、那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議において取りまとめられた「那須塩原駅周辺のまちづくりに関する報告書」に示された方向性を一つの指針としながら、市民参画の下、この那須塩原駅周辺を、那須塩原市のみならず栃木県の北都の玄関口にふさわしいものとしてどのようにあるべきか、30年後である令和32年（2050年）度を目標年次に、その将来像を描くものとして策定するものです。

そして、このビジョンに描く将来像を一つ一つ具現化する努力を重ね、まちづくりを進めていくことにより、次のような効果と成果に結び付けていきたいと考えます。

1-2 ビジョンの効果と成果イメージ



1-3 ビジョンの位置付け

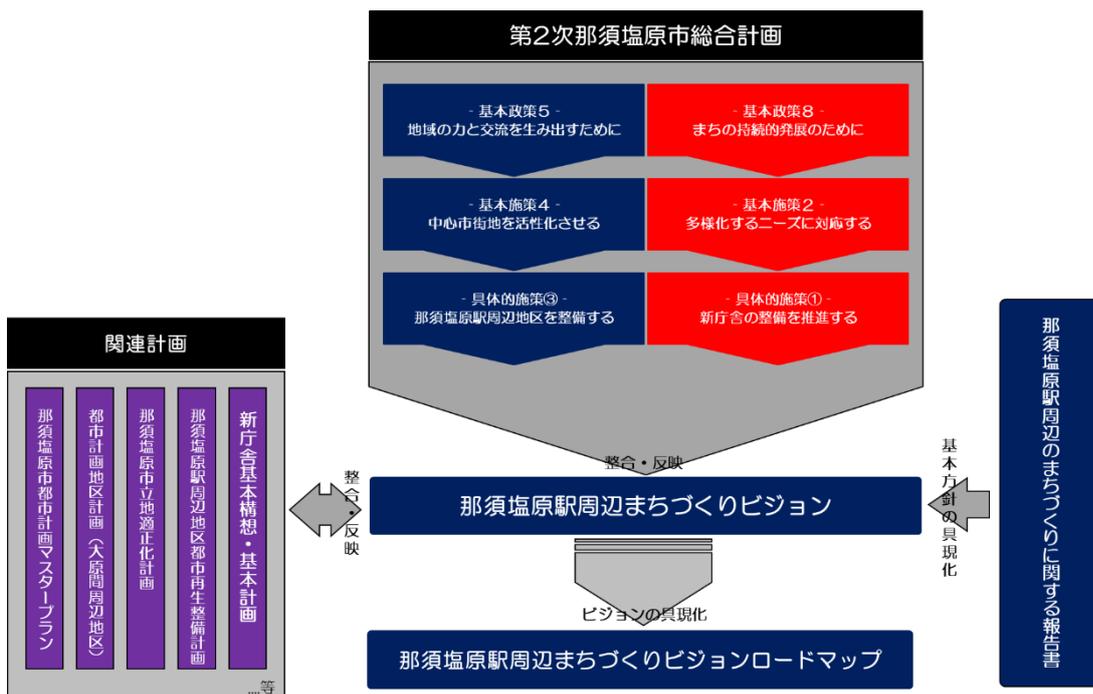
今回策定するビジョンは、『第2次那須塩原市総合計画』を最上位計画としており、その中では二つの項目が掲げられています。

まず一つ目が【基本政策5 - 基本施策4 - 具体的施策③】において「駅周辺が活気あるまちなみとなることで、中心市街地の活性化を図り新たな賑わいの創出につながる。」とし、『那須塩原駅周辺の整備』が掲げられ、二つ目として【基本政策8 - 基本施策2 - 具体的施策①】において「今後も那須塩原市として在り続けるためには、市民に親しまれる市政運営、多様化する市民ニーズに対応するための行政サービスの利便性の向上が求められる。」とし、具体的な取組として、那須塩原駅周辺整備の核となる『新庁舎建設事業の推進』が掲げられています。

また、このビジョンを策定する上で、那須塩原駅周辺のまちづくりを進めていくための一つの方向性を示すものとして、昨年度、令和2年2月、有識者による『那須塩原駅周辺のまちづくりに関する報告書』がまとめられているほか、『那須塩原市都市計画マスタープラン』をはじめ、都市整備関連の各種計画においても、このエリアが那須塩原市のみならず、栃木県北におけるその存在意義や有するポテンシャルの高さから、県北地域の玄関口・広域的な拠点としての都市機能の集積や高度な土地利用、魅力ある市街地の形成等が図られるべきエリアとして位置付けられています。

今回のビジョンはそうした関連する計画等を踏まえつつ、30年後の未来に在るべき那須塩原駅周辺の将来像を描くものです。

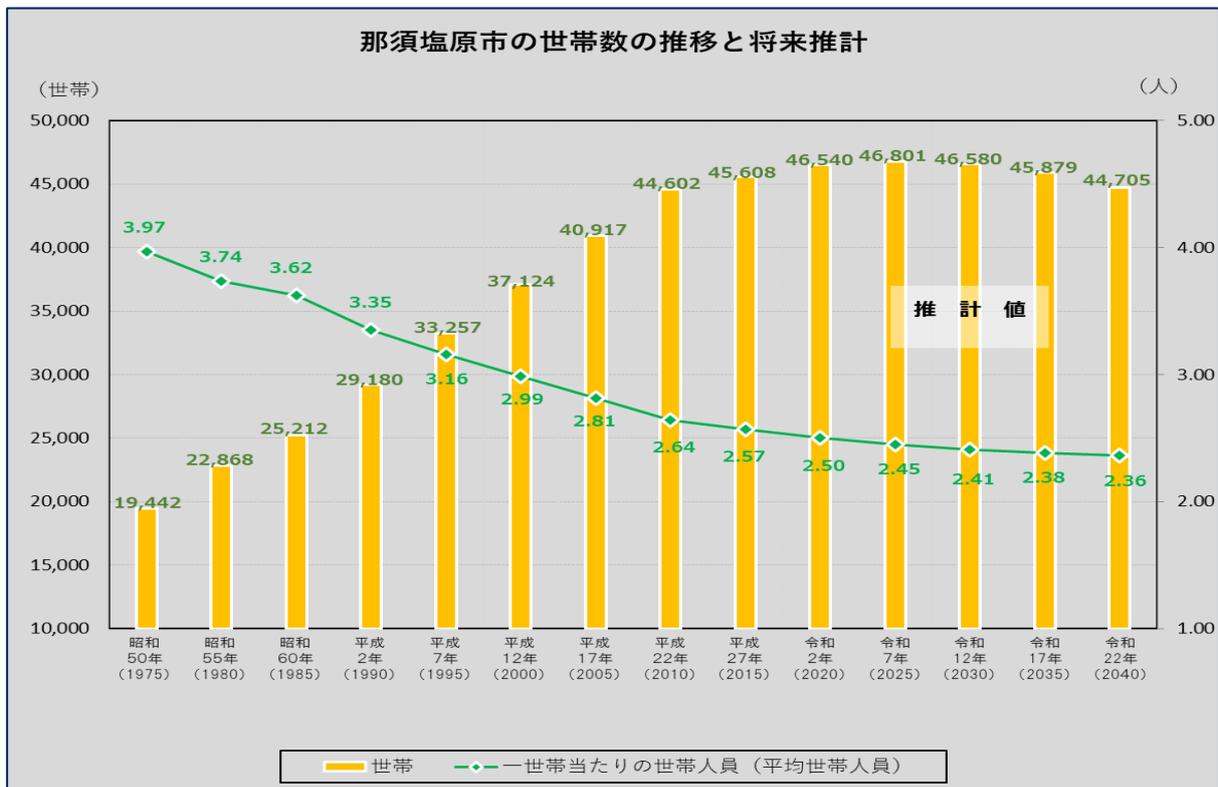
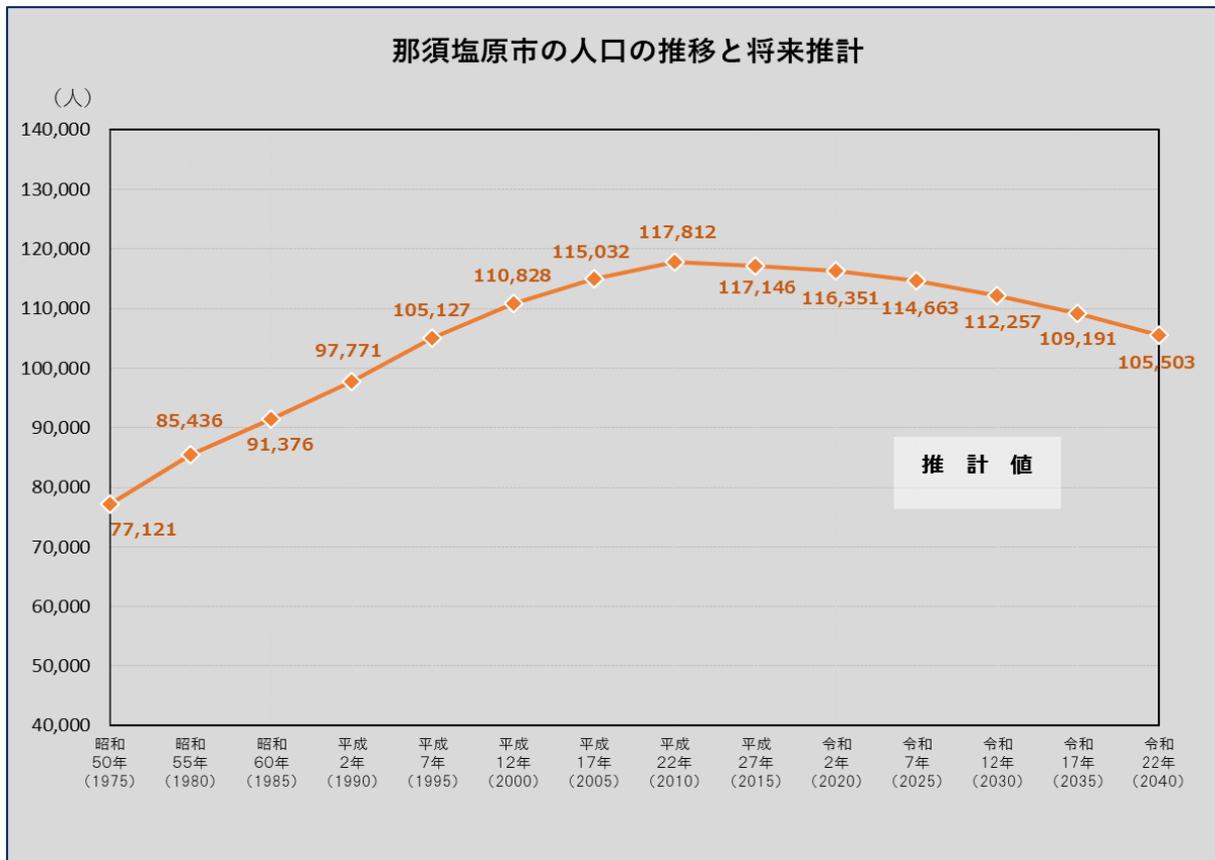
【ビジョンの位置付け】



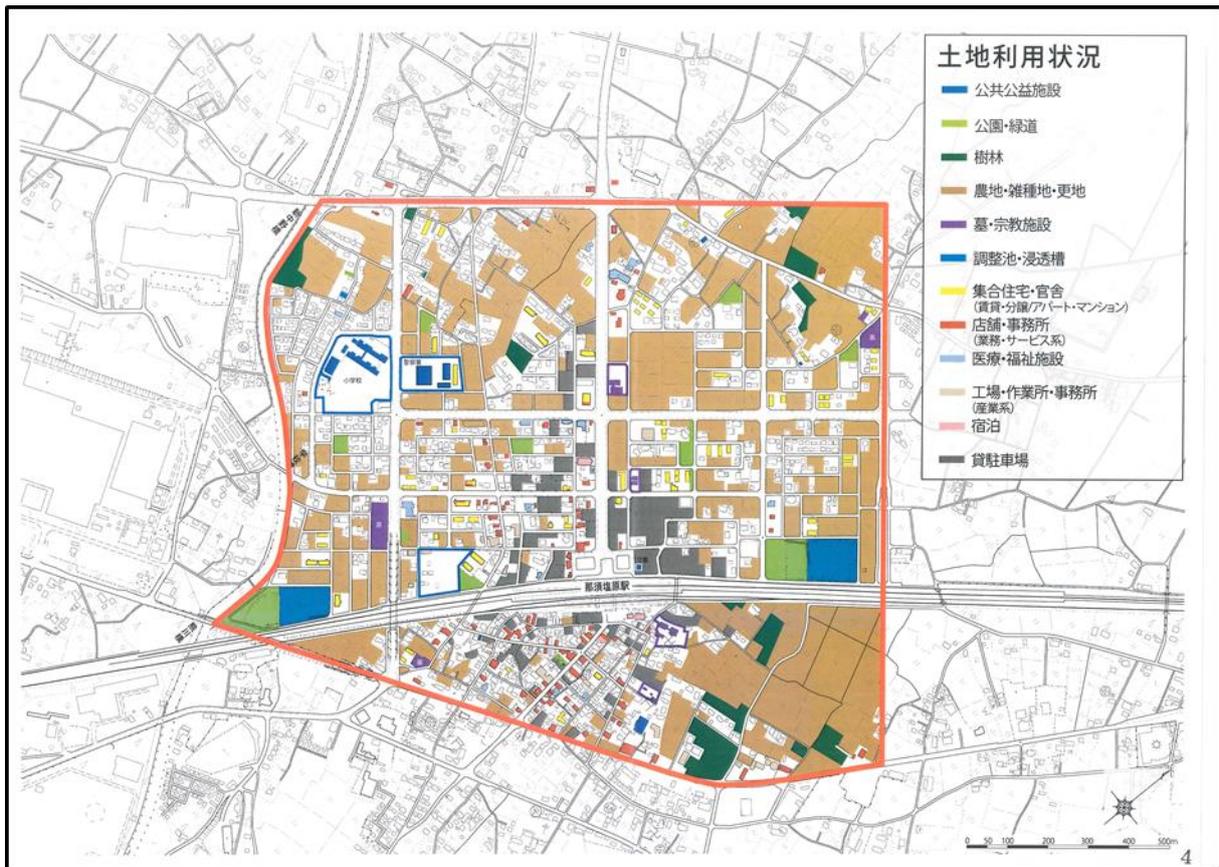
第2章 那須塩原駅周辺の現状と課題

2-1 那須塩原駅周辺の現状

(1) 那須塩原市の人口の推移（令和22年度まで） - 総合計画より抜粋 -



(2) 土地利用の状況 - 那須塩原市立地適正化計画より抜粋 -



2-2 那須塩原駅周辺の課題

平成17年1月に旧黒磯市、西那須野町、塩原町の合併により誕生した那須塩原市は、その合併時の協定事項に基づき、市役所新庁舎を那須塩原駅周辺に移転する計画が立てられるなど駅周辺は今後の発展が見込まれるとともに、首都圏からの玄関口でもある「那須塩原駅」は、東京駅から新幹線で70分程度の距離にあることなどから、首都圏と栃木県北地域を繋ぐ拠点としてのポテンシャルを持ち合わせていると考えられます。

しかしながら、現状として、那須塩原駅は観光客による新幹線利用が少なく、栃木県北地域の玄関口としての役割を十分に果たせていないのが現状であり、新幹線は1時間に1本程度の運行にとどまり、また、駅を降りた後の二次交通についても、観光地への循環バスが少ないなど、利便性の低さが指摘されています。

加えて土地利用の高度化が進んでおらず、駐車場としての土地利用が多くみられる一方、駅周辺においては商業施設や飲食店が少ない状況であり、観光客をはじめ、駅周辺を訪れた人々の滞留や回遊を促す要因が少なく、那須塩原市の玄関口としてだけでなく、栃木県北地域の玄関口であるにも関わらず、『拠点』としての魅力を低下させることにつながっています。

こうした実態は、今回のビジョン策定に当たり行ったアンケート調査にも表れており、無作為抽出の市民2,000名を対象とした調査では、那須塩原駅周辺の印象について「全体的に人や地域に活気や賑わいがあると感じるか」「利用したいと思う店舗や施設が充実していると感じるか」という質問において、「いいえ」と回答された方が「はい」と回答された方のおよそ9倍近くに上る結果となったほか、市内県立高等学校4校の生徒(約2,500名)を対象とした調査において、那須塩原駅周辺が「今後どのようなエリアになれば良いと思うか」という質問では「人や地域に活気や賑わいがあり、周辺を散策するのが楽しいエリア」「繁華街や大型店舗など、多くの人が集まる商業施設を中心としたエリア」と回答された方が圧倒的に多く、年代や職業等を問わず、多くの方が、那須塩原駅の周辺に「活気」や「賑わい」「楽しさ」等を求めていることが改めて分かる結果となりました。

よって、今後の那須塩原駅周辺のまちづくりを進めるに当たっては、こうした現状を踏まえつつ、前述したような今後の発展の可能性や首都圏との近さなどのポテンシャルを十分に引き出しながら、那須塩原駅周辺の魅力をより高めていく必要があると考えられます。

【現状のイメージ画像等】



イメージ画像①

【キャプション①】



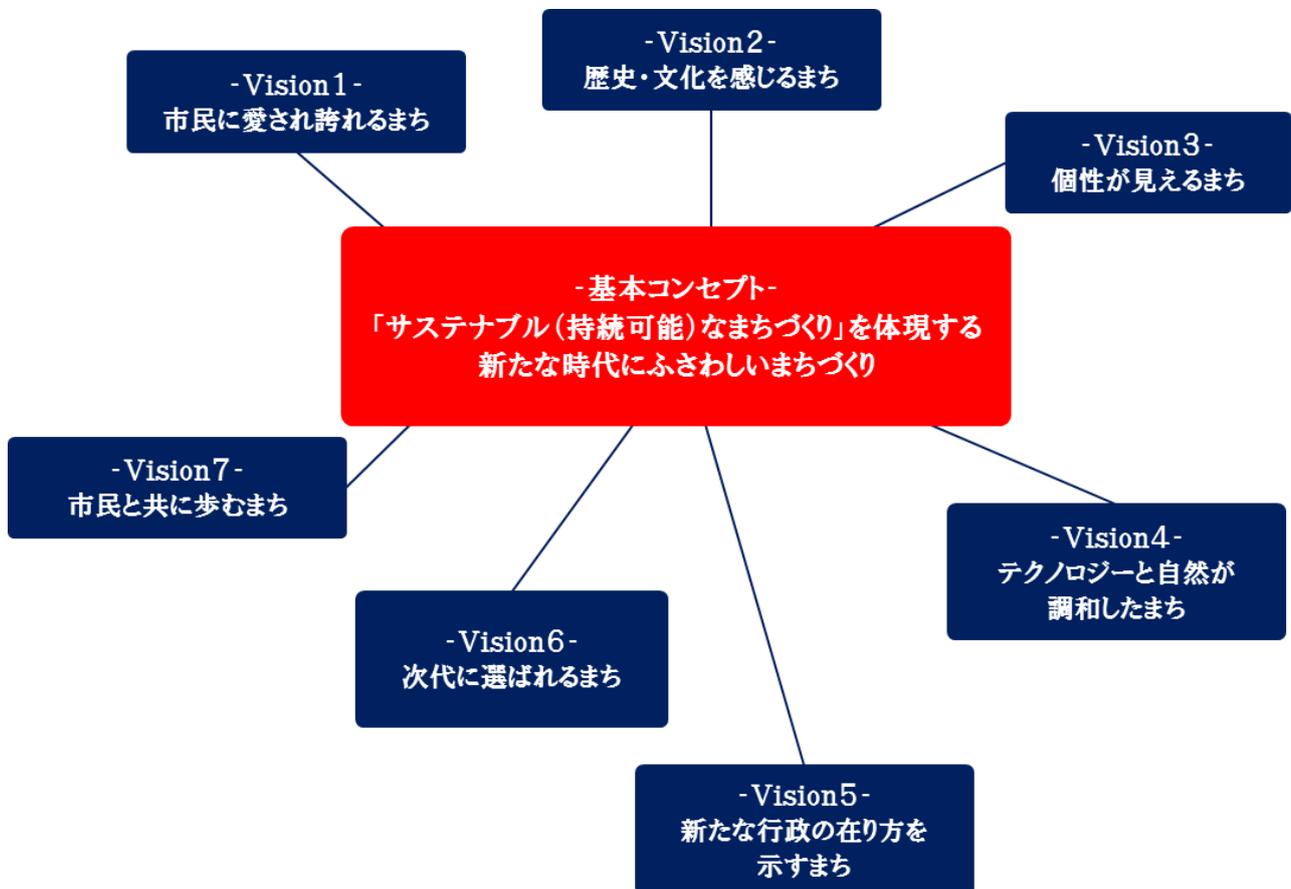
イメージ画像②

【キャプション②】

■ 第3章 ビジョンの基本コンセプト（目指すべきまちづくり）

那須塩原駅周辺の現状や課題、那須塩原駅周辺まちづくりに関する報告書の示された方向性、市民アンケートなど市民参画の結果、そして、那須塩原市が目指すまちづくり・市政運営の方針を踏まえ、那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの基本コンセプトを次のとおりとします。

【コンセプト構成図】



Vision 1 - 市民が中心となり魅力を発信 -

【プロジェクトのエッセンス】

◆ まちづくりの第一歩は地域への愛着から

『まちづくりには地域への愛着が大切』

◆ まちづくりは内と外から

『駅を中心とした市民の巻き込みと外部からの人の呼び込みが重要であり、例えば駅から那須連山を望む西口の大通りを日本一の並木道に市民の手で作りに上げるようなムーブメントを起こすことも一案である。』

◆ 那須塩原駅を栃木県北都のシンボルに

『那須塩原駅は、市のみならず、那須野が原、栃木県北地域全体の玄関口として、その地域を象徴するような駅を目指すべき。』

◆ 栃木県北の楽しみは那須塩原駅から

『那須塩原駅をチーズやワインを活かしたガストロノミーツーリズムや酪農ツーリズムなどの出発点として位置付けるなど、観光客のみならず地域の人でも那須全体を楽しむことのできる拠点である必要がある。』

◆ 魅力溢れる秘めたポテンシャル

『上質な高原リゾートのイメージ、東京からの良好なアクセス等の魅力は、軽井沢と同様のポテンシャルがある。』

『駅を拠点として那須塩原市の魅力を更に高め、認知度を上げていく余地は十分に備えている。』

【プロジェクトの目的】

地域への愛着が生まれ、「このまちに住み続けたい。」「このまちに住みたい。」と心から思える、将来の世代に自信をもって残していける、住んでいる人にとっても那須塩市を訪れた人にとっても満足度の高いまちをつくる。

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

市民に愛され誇れるまち

那須塩原駅周辺に商業施設が増え、駅周辺の住民をはじめ、そこを目的地として訪れる人も増えるとともに、駅利用者などにとっても回遊性が高まるなど、人々が、日々の生活の中に「活気や賑わい」を感じるとともに、「安全や安心」「癒しや安らぎ」といった「暮らしやすさ」「住み心地の良さ」を感じる環境が整備されている。

そして、そうした環境が整備されることにより、地域に対する「愛着」や「誇り」がより一層育まれ、ほかの人に自慢したくなるようなまちになっている。

また、「良質な住環境」を維持するため、住民自らが積極的にまちづくりに参加し、SNS等を介し、住民からも「まちへの愛着」「まちの誇り」等エリアに関する情報が発信され、那須塩原駅周辺の対外的な認知度（魅力度）のアップにつながり、那須塩原駅周辺を中心に移住・定住者の増加にもつながっている。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ① 住環境の充実（コミュニティカの再生／防災力・防犯対策の強化／子育て・福祉環境の充実／繁華街など商業施設の充実／環境景観の維持保全等）
- ② 移住・定住に関するPRの取組強化
- ③ 那須塩原市・那須塩原駅周辺エリアのブランディング

プロジェクトテーマのイメージ図

Vision2-歴史を活かしたまちづくり-

【プロジェクトのエッセンス】

◆ 歴史は地域のアイデンティティ

『那須野が原の開拓の歴史は、まさに地域のアイデンティティであり、これまでも大切に語り伝えられ、今日の市民生活に息づいている。』

◆ 歴史は大切な地域資源

『日本遺産にも認定されたこの歴史を、これからのまちづくりにも積極的に活かしていく必要がある。例えば、前述のツーリズムに日本遺産のストーリーを組み合わせることは十分に可能と考える。』

◆ 市町村合併の歴史と心の一体感の醸成

『市町村合併によりできた市であるという背景もあり、地域全体が一体となるようなお祭りが無い。開拓の歴史などをテーマとしたイベントを駅周辺で開催し、市民の拠り所として一体感の醸成につなげていくことも有用である。』

【プロジェクトの目的】

開拓の歴史とそこに生まれた文化遺産を地域活性化のための貴重な地域資源として有効に活用するとともに、これまで受け継がれてきた歴史・文化に触れることにより、市民の心情面における一体感がより醸成されるまちをつくる

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

歴史・文化を感じるまち

那須塩原市や那須地域の開拓・発展の歴史や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことが出来る環境が整備されるとともに、それらを巡る周遊交通機関なども整備され、観光客だけでなく、市民も容易に「訪れる」ことが出来るようになり、日々の暮らしの中に歴史や文化を「感じる」ことが出来るまちになっている。

また、市民を中心にそうした歴史や文化を活用したイベント等が行われ、人々の中の歴史や文化に対する関心や理解が深まるとともに、SNS等を通じて対外的にも本市の歴史や文化が広くPRされ、誘客の一つの資源になっている。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ① 文化財循環交通網の構築
- ② 住民主体による文化・歴史イベントの開催
- ③ 文化財を活用した観光プラン等の作成

プロジェクトテーマのイメージ図

Vision3-景観を前面に押し出した駅前の在り方-

【プロジェクトのエッセンス】

◆ 那須連山が見える駅

『駅を降りた後に広がる素晴らしいスカイラインと那須連山の景観をもっと活かすべき。例えば、駅前にペデストリアンデッキを伸ばし、その向こうに山並みが眺望できるようにすることで、近隣の駐車場を隠すことが期待できるほか、上部を緑化し、デッキ上でイベントなどを開催できる空中庭園のような空間を生み出すことができれば、栃木県北地域全体の玄関口として認知されるものとする。』

◆ 多種多様な魅力の『凝縮』と『発信』

『駅前全体については、大掛かりな施設が必要というわけではなく、様々な要素が集まったパッチワーク型の施設があり、そこで地域全体のことが分かることができれば、駅前の雰囲気を変えることができる。例えば、観光案内所、地産地消カフェ、那須塩原ミルクスタンド、小型の足湯施設、CO₂実質排出量ゼロ宣言に基づくクリーンエネルギーのショールーム展示など、これらの機能や施設を駅前に配置することで地域の魅力を凝縮できる。』

◆ 観光産業の強化と交通機能の充実

『観光の面では、インバウンドの少なさが観光面における課題の一つとなっている。例えば、首都圏に在住している外国人に新幹線を使って那須塩原市に来てもらい、一泊二日などで温泉やスキーを楽しむなどの取組も考えられる。そのためには、市内の主要観光地を上手く周遊するための二次交通の充実が重要である。駅前の広場を活用し、レンタカーやホテル送迎などの拠点機能をより充実させることで、那須街道の観光客の引込みを図るなど、市内にとどまらず那須塩原全体の観光を活性化させることができる。』

◆ 未来志向の交通網の構築

『将来的にはMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）のテクノロジーにより、様々な乗り物やサービスがつながり、シームレスに予約・決済ができるなど、利便性は格段に向上することや、自動運転により更なる渋滞の緩和や、市内の移動が最適化されるという姿も想定される。将来的な展開を見据えつつ、まずは観光客による鉄道利用を太くすることで、駅前空間を活性化させていくことが必要となる。』

【プロジェクトの目的】

那須塩原駅から見える那須連山等の眺望、星が輝く澄んだ夜空等を通じて、那須塩原市や那須地域が持つ特有の魅力を感じることができるとともに、「観光」等の拠点として栃木県北・那須地域全体の魅力も感じることができるまちをつくる。

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

個性が見えるまち

那須塩原駅を降りると、本市の「らしさ」をイメージさせるモニュメント（人工物）と那須連山の山並み、星が瞬く澄んだ夜空等の風景（自然物）が出迎え、駅前には那須塩原市はもちろん、那須エリアの観光地、特産物等に関する情報をインフォメーションする施設等が整備され、駅を降りた瞬間から「那須塩原らしさ」「那須らしさ」を感じられる空間が形成されている。

また、那須塩原駅及びその周辺をターミナルとして、観光はもちろんのこと、ビジネスなどで訪れた方にも対応した二次交通網が整備され、駅周辺を訪れた人達がストレスを感じることなく、必要なエリアに移動することが可能になっている。

こうした環境により、那須塩原市、そして那須塩原駅周辺を訪れた方の中に、より良い「那須塩原らしさ」が印象付けられ、【那須塩原市ファン】の創出、移住者や定住者の増加にもつながっている。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ① 那須塩原市「らしさ（個性）」の再確認と共有
- ② 二次交通網の充実・強化
- ③ 景観の維持・保全及び積極的な活用

プロジェクトテーマのイメージ図

Vision4-テクノロジーの活用-

【プロジェクトのエッセンス】

◆ リアリティとバーチャルリアリティの融合によるまちづくり

『テクノロジーの発展により、まちづくりの定義が変わってきている。リアルなモノづくりに、バーチャルが伴わないとリアルなまちづくりが盛り上がらないという時代になりつつある。デジタルを活用して、魅力の届いていないところに情報を届け、その効果を計測して機能させるというサイクルが大切となる。』

◆ 先端技術による賑わいの創出

『先端技術をまちづくりに積極的に取り入れていくことで、人々や機会が多く集まり、まちそのものに活気を与えることになる。例えば、駅前の観光案内版にスマホをかざすと観光地のバーチャルな動画が動き出すという方法も考えられる。』

◆ 新たな時代のビジネススタイルの実践

『ワーケーション（ワーク×バケーション）のように、インターネットを利用することで仕事場所を問わないという新しい働き方が浸透しつつある。新幹線による首都圏までのアクセスの良さを活かし、多様な働き方を実現するスマートタウンの拠点整備なども考えられる。』

◆ テクノロジーと自然の相乗効果による魅力のアップ

『テクノロジーを追及していく上で問題となるのは、人間が感じるストレスである。世界のデジタル革命先進地が、豊かな自然を背景とした食や農につながる環境にあるということは、那須塩原市の持つポテンシャルに通ずるものであり、濃密な自然の存在や、それと共存してきた歴史の理解が重要となる。

テクノロジーと自然の相乗効果により那須塩原のブランド力を高め、ターゲットを明確にしつつ、ここに住みたいと思えるような人々を増やすことで、今後の更なる持続可能な発展が期待される。』

【プロジェクトの目的】

テクノロジーと自然が調和し、ICT等を活用した新たな働き方・多様なライフスタイルが実践されるとともに、ひと本来の生活に必要な「癒し」が得られるまちをつくる。

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

テクノロジーと自然が調和したまち

東京などへのアクセスの優位性が広く認知されるとともに、デジタル化の推進などにより、首都圏に本社を構える企業のサテライトオフィス等が駅周辺に定着し、多様な働き方が可能な環境が整備されている。

また、市内の温泉地区等を中心に Wi-Fi 等のデジタル環境が整備され、ワーケーションに適したエリアとして全国的な認知が進むとともに、それらのエリアを結ぶ交通網の充実と従来、那須塩原市が有している豊かな自然環境がもたらす「癒し」などの相乗効果によって、本市が持つ「観光地（非日常）」としての魅力の充実と「職場（日常）」としての新たな価値の創出により、企業の誘致、移住・定住人口の増加につながっている。

また、そうした環境の変化に伴い、従来、駅周辺において駐車場用地として利用されてきた土地も新たな利用形態への転換が進んでいる。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ① サテライトオフィス・ワーケーションに係る施策の充実
- ② 二次交通網の充実・強化
- ③ 那須塩原市・那須塩原駅周辺エリアのブランディング

プロジェクトテーマのイメージ図

Vision5-那須塩原市役所の新庁舎-

【プロジェクトのエッセンス】

◆ 時代のニーズと地域のニーズに対応した庁舎の検討

『新庁舎については、環境型オフィスとして率先して先端技術を活用していくことが考えられる。市役所そのものは高層である必要はなく、山並みや景観に配慮したものであることが求められると共に、今後進むであろう駅周辺の市街化に対して、景観的に先導的な役割を果たすことが期待される。』

◆ 庁舎は市の象徴（シンボル）

『新庁舎は市の象徴であるため、市の文化・歴史やアイデンティティを感じることができるようなものであるべきである。』

◆ 未来を見据えた行政機能の検討

『将来的に行政手続は、自宅やコンビニなどで行うことができるようになることも想定される。そのため長期的な視点で市庁舎機能を検討していく必要があり、今後は特に市民活動の結節点としての市役所という役割が重要となることから、様々な機関との複合的な整備という方向性も考えられる。』

◆ 庁舎が生み出す新たな価値

『市役所というのは市民が集まる場所であり、色々なお祭りやイベントを行う際に、市庁舎の周りのスペースを利用することができる。官民連携（PPP）においては、あるべき行政サービスを市民と役所がともに考え、お互いに役割分担を行うが、市民が集まる場としてのハード整備にとどまることなく、ソフト面においても連携していくことが大切である。』

『使わない部屋を活用して市民が活動したり、市庁舎の中にNPOの拠点を入れたりするなど、活動するプロセスこそが人とのつながりとなり、人と人とが交流することで新たな価値を生み出す、市民の集まりやすいオープンな場所であることが求められる。』

【プロジェクトの目的】

新たな時代に相応しい行政機能の整備、那須塩原市、そして栃木県北の玄関口としての象徴・ランドマークの創出と公共サービスの効率性や利便性の向上、災害対応力の強化を図るとともに、人と人とのつながりにより新たな価値・魅力が生み出されるまちをつくる。

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

新たな行政の在り方を示すまち

新たな庁舎は、「デジタル化（DX）の推進」「新たなリスク管理」等、時代の潮流を見据えた機能を備えるとともに、本市のランドマーク施設としての「那須塩原らしさ」や県北の玄関口に構える庁舎として「那須エリア」を感じる事ができる空間を有し、庁舎そのものの利用価値・存在意義が高まり、市民にとってのアイデンティティを備えた、シンボリックな建物として、行政手続きだけでなく様々な利用目的で市民が訪れる場所となっている。

また、こうした庁舎を核として、周辺エリアの道路網等のインフラストラクチャーの整備等、駅周辺のまちづくりが進み、市内外からのアクセス性の向上、駅周辺への店舗等の増加等に伴い、那須塩原駅周辺における人々の回遊性も高まり、駅周辺における新たな人の動きが生まれる等、更なる「賑わい」や「魅力」の創出、人や事業者の流入、土地利用の高度化等、まち（エリア）全体の活性化が図られている。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ① 新庁舎及び駅前空間の整備
- ② 新庁舎周辺の道路網・インフラ環境の整備
- ③ 民間活力の導入

プロジェクトテーマのイメージ図

Vision6 - 高い将来性と可能性 -

【プロジェクトのエッセンス】

◆ 栃木県北地域における交通網の要

『東北新幹線や宇都宮線（東北本線）の駅を擁するのみならず、国道4号をはじめ主要な幹線道路が走るとともに東北自動車道にもアクセスが容易であるなど交通の要衝として、地理的にも重要な位置にあり、那須塩原市のみならず栃木県北地域における交通網の拠点（ハブエリア）としてのまちづくりが求められる。』

◆ 広域圏における拠点

『少子高齢化の進展とそれに伴う、各自治体の収入の減少、社会保障費の増大、生産年齢層への負担の増加等、自治体が抱える様々な問題を克服するため、自治体間の広域的な連携強化が求められている中、本市は、大田原市、那須町及び那珂川町とともに、「那須地域定住自立圏構想」などを構成しており、那須塩原駅周辺はそれら広域圏の拠点たるにふさわしい環境を整備する必要がある。』

◆ 省庁機能移転の受け皿

『災害に対する安全性、新幹線駅や高速道路を擁することによる首都圏へのアクセスの容易性、過去に国会移転等などの検討の際に候補地とされた経緯等を踏まえ、新たな形の省庁機能の移転・首都機能のバックアップ地としての役割を果たすポテンシャルを秘めている。』

【プロジェクトの目的】

那須塩原市の中の一つのエリアとしてだけでなく、栃木県北地域など広域圏における拠点、省庁機能の一部移転やバックアップの受け皿としての役割など、より大局的な見地からその重要性や必要性に応えるまちをつくる。

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

次代に選ばれるまち

「首都圏とのアクセスの容易性」「災害リスクに対する高い安全性」等といった那須塩原市が有する地域の優位性から、那須塩原市内に省庁機能の一部移転が実現し、玄関口でもある那須塩原駅周辺を中心に、インフラストラクチャー等の整備が進んでいる。

また、省庁機能の一部移転に伴う関係者の移住や定住が進み、人口減少に歯止めがかかるとともに、移転省庁への通勤者により那須塩原駅の利用者数も増加し、それらをターゲットとした新たな「賑わい」や「活気」が駅周辺に生まれている。

加えて、本市を中心とする広域圏の連携強化や新たな広域圏の形成などが図られるとともに、圏域内のヒトやモノの交流・流通がより活発に行われるようになり、広域圏内における更なる一体感が創出されている。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ① 省庁機能の一部移転に向けた働き掛け
- ② 那須塩原市・那須塩原駅周辺エリアのブランディング
- ③ 広域圏における自治体間の連携強化

プロジェクトテーマのイメージ図

Vision7-まちづくりはひとづくりから-

【プロジェクトのエッセンス】

◆ 異なるニーズの組合せ

『まちづくりに求めるニーズはひとそれぞれ。立場や環境によって異なるのは当たり前であり、それらを個々に取り込んではちぐはぐなまちづくりになってしまう。』

異なるように見えるニーズ同士の共通点や根幹を同じくする部分を見つけながらまちづくりを進めることが大切である。』

◆ 餅は餅屋

『まちづくりに関する全てのニーズに対し行政だけでは対応できる範囲も限られ、受止め切れない部分も生じてしまう。』

受止めきれない部分を切捨ててしまうのではなく、受け止めてくれる先・受止められる手法を見つけ出し、まちづくりに対する想いを出来る限り取りこぼすことのないようにすることが肝要である。』

◆ 人材の豊富さがまちづくりのカギ

『ICT機器やSNSの進歩などにより、人と人との出会いの方法が多種・多様なものになり、そうした環境は今後ますます進化を遂げることが想像される。』

こうした環境の変化に伴い、従来の方法では出会えなかった様な人材との出会いやネットワークが構築される可能性が高まるとともに、多種・多様な人材との出会いによりまちづくりの手法等も広がる。』

【プロジェクトの目的】

様々な市民参画等のプロセスを通じて得られた人材が、那須塩原駅周辺のまちづくりの担い手として継続的に関わるとともに、市民がまちづくりへの関心を失うことなく継続的に担い手として参画する環境を整え、より高い次元で市民との協働、多様な担い手によるまちづくりが実践されるまちをつくる。

【プロジェクトのテーマ - 30年後の目指す未来 - 】

市民と共に歩むまち

専門的な知見を有する有識者をはじめ、まちづくりに取り組んでいる市民団体、まちづくりに関心のある民間企業、そしてまちづくりに対する夢や想いを持っている市民個人などからなる『那須塩原市版まちづくりシンクタンク』が構築され、それらと行政が一体となって、多種・多様な知見と視点を持ったまちづくりが進められている。

また、シンクタンクからまちづくりに関するネットワークも広がり、民間活力の導入など、民間企業との連携によるまちづくりが積極的に行われるようになっている。

併せて、市民の中には「市政への市民参画」の素地が根付き、まちづくりの担い手が継続的に生まれ、市民とともにまちづくりが進められる環境が継続されている。

【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

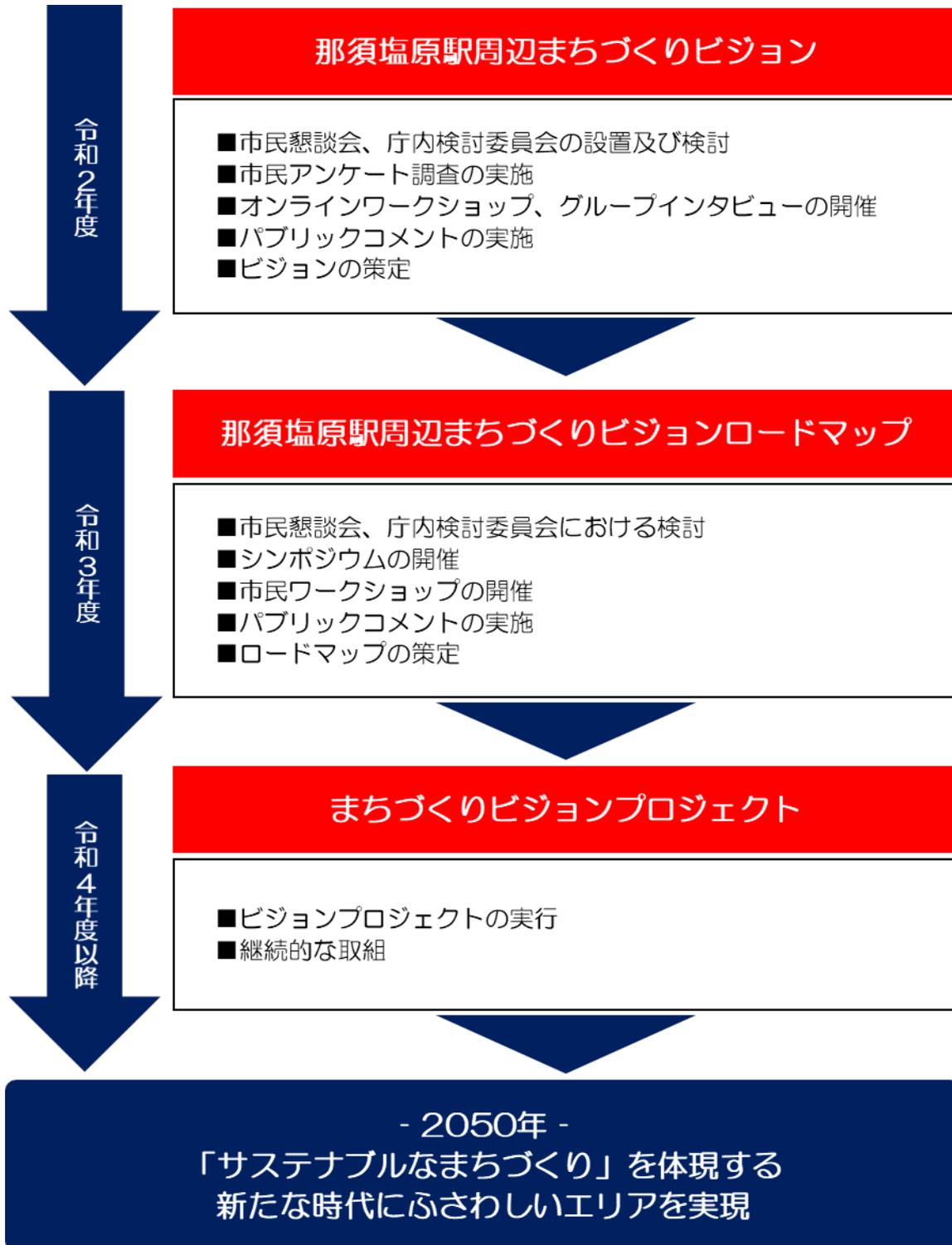
- ① 市民参画プロセスの継続と充実
- ② 市民参画に対する理解の深化と機運の醸成
- ③ 市民、NPO法人、事業者等、多様な担い手との連携強化

プロジェクトテーマのイメージ図

■ 第5章 プロジェクトの実現に向けて

5-1 スケジュール（ロードマップ）

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを具現化していくための行程を次のとおり示す。



5-2 ビジョンの具体化に向けた方向性

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを具体化するための主な方向性・方策を次のとおりとし、ビジョンに掲げた将来像の着実な実現に向け、取組を進めることとする。

(1) 民間力の積極的な導入及び導入を促す新たな魅力の創出

- PPP (Public Private Partnership) 等の活用を積極的に検討するとともに、駅周辺への進出を検討している民間事業者への支援の在り方を検討する。
- 駅周辺の道路網等、都市基盤の整備を計画的に進め、駅周辺及び駅周辺エリアへのアクセス性の向上に努める。
- 住環境等に配慮しつつ、建築物の高さ制限などに関し、その有効性や緩和の必要性等について検討する

(2) 市民との協働によるまちづくりの更なる推進

- 地域の継続的な発展、まちづくりの維持のため、地元住民を中心とした市民との協働によるまちづくりを担う組織づくりを支援する。
- 継続的な協働のまちづくりの素地の醸成、担い手の創出に努める。

(3) 多種多様な事業手法の検討と積極的な活用

- 行政効率、財政負担の軽減などを念頭に、事業の計画・実施に当たっては様々な角度から事業手法を検討するとともに、多様な視点をもって財源の確保に努める。
- 所管が異なる複数の事業が同時に展開されるような場合、円滑な事業推進が図られるよう必要に応じて協議・調整の場を設ける。

■ 第6章 ビジョン策定に当たっての市民参画の経緯

6-1 ビジョン策定までの経緯

開催日／場所等	会議名	会議内容
令和2年08月04日 ／303会議室	第1回庁内検討委員会	位置付け、骨子案、スケジュール、アンケート調査の説明
令和2年08月19日 ／303会議室	第1回 ワーキンググループ会議	位置付け、骨子案、スケジュール、アンケート調査の説明
令和2年08月26日 ／オンライン	第1回市民懇談会	位置付け、骨子案、スケジュール、アンケート調査の説明
令和2年09月12日 ～10月 2日まで	市民アンケート調査	アンケート調査の実施
令和2年10月15日 ～10月21日まで	高校生アンケート調査	アンケート調査の実施
令和2年11月10日 ／オンライン	オンライン ワークショップ	市民6名とのオンラインによるワークショップを実施
令和2年11月18日 ／オンライン	第1回有識者会議	アンケート調査結果の検証 将来予測等に関する助言
令和2年11月28日 ／東那須野公民館	グループインタビュー	市民13名とのグループインタビューを実施
令和2年12月 4日 ／書面協議	第2回 ワーキンググループ会議	ビジョン(素案)に関する協議、 アンケート調査結果の報告
令和2年12月14日 ／303会議室	第2回庁内検討委員会	ビジョン(素案)に関する協議 アンケート調査結果の説明
令和2年12月15日 ／オンライン会議	第2回市民懇談会	ビジョン(素案)に関する協議 アンケート調査結果の説明
令和2年12月22日 ／オンライン会議	第2回有識者会議	ビジョン(素案)に対する助言
令和2年12月23日 ～令和3年 1月22日	パブリックコメント	ビジョン(素案)について
令和3年 月 日 ／303会議室	第3回 ワーキンググループ会議	最終稿のまとめ
令和3年 月 日 ／303会議室	第3回庁内検討委員会	最終稿のまとめ
令和3年 月 日 ／オンライン会議	第3回市民懇談会	最終稿のまとめ
令和3年01月28日 ／303会議室	庁議	ビジョンの庁内最終決定
令和3年03月	3月議会	議決

6-2 市民参画の状況

ビジョン策定に当たっては、そのプロセスにおいて【市民参画】の部分をより重視しながら取組を進めてきた。

各取組の経緯、概要等は次のとおりである。

1 まちづくりビジョン市民懇談会の設置

- (1) 目的 ビジョン策定に当たっての諮問的機関として、策定プロセスにおける公正の確保や透明性の向上を図るとともに、市民参画による開かれた市政を推進し、市民の声や提案等をビジョンに反映する。
- (2) 構成 多分野の各種団体等からの推薦による委員15名で構成(詳細はP に掲載)
- (3) 経緯 全3回開催(基本的にオンラインにより実施した。)

2 まちづくりビジョン有識者会議からのアドバイス

- (1) 目的 ビジョンの策定に当たり、令和元年に作成された「那須塩原駅周辺のまちづくりに関する報告書」において示されたまちづくりの方向性から、素案に対する助言等を行う。
- (2) 構成 各分野の有識者4名で構成(名簿等はP に掲載)
- (3) 経緯 全3回実施(基本的にオンラインにより実施した。)

3 市民アンケートの実施

- (1) 目的 広く市民を対象に那須塩原駅の利用頻度、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する「夢」や「想い」聞き取り、ビジョン策定の基礎資料とする。
- (2) 概要
 - ① 調査期間 令和2(2020)年9月12日から10月2日(21日間)
 - ② 調査対象 無作為抽出した市民2,000人
 - ③ 調査内容 まちづくりに関する設問【選択式】及び自由記述意見【記述式】及び回答者の属性に関する設問
 - ④ 調査方法 調査票用紙による回収及びWebからの回答
- (3) 結果 回答率 57.7%(回答者数1,153人)
主な結果については、附属資料P に掲載

4 高校生対象アンケートの実施

- (1) 目的 30年後の那須塩原市の担い手たる高校生を対象に那須塩原駅の利用頻度、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する「夢」や「想い」を聞き取り、ビジョン策定の基礎資料とする。
- (2) 概要
 - ① 調査期間 令和2（2020）年10月15日から10月22日（8日間）
 - ② 調査対象 市内県立高等学校（4校）全生徒 2,500名
 - ③ 調査内容 まちづくりに関する設問【選択式】及び自由記述意見【記述式】及び回答者の属性に関する設問
 - ④ 調査方法 市ホームページのアンケート調査機能を使用したWebからの回答
- (3) 結果 回答率 38.9%（回答者数960人）

5 オンラインワークショップの開催【国立大学法人宇都宮大学との共同研究Ⅰ】

- (1) 目的 那須塩原駅周辺のまちづくりに関する市民の声を直接すくい取る。
- (2) 概要
 - ① 実施期間 令和2（2020）年10月10日
 - ② 実施対象 参加を希望した市民6人
 - ③ 実施方法 Web会議システム「ZOOM」を使用し、オンラインでワークショップを行った。なお、共同研究の一環として、宇都宮大学の学生も参加者の意見の書記及び取りまとめ等サポート役として参加した。

6 グループインタビューの開催【国立大学法人宇都宮大学との共同研究Ⅱ】

- (1) 目的 那須塩原駅周辺のまちづくりに関する市民の声を直接すくい取る。
- (2) 概要
 - ① 実施期間 令和2（2020）年11月28日
 - ② 実施対象 参加を希望した市民14人
 - ③ 実施方法 インタビュアー1名又は2名と4～5名の参加者で一つのグループを構成し、「ウィッシュポエム」※と呼ばれる手法を用いて、那須塩原駅周辺のまちづくりに関して「夢」や「想い」を語り合った。
なお、共同研究の一環として、インタビュアー役や書記役として宇都宮大学の学生も参加した。

※ウィッシュポエム：グループワークの手法の一つ。与えられたテーマに対して一人一人が「●●●●が◆◆◆◆だったらいいのになぁ」と「自分の希望（ウィッシュ）を詩（ポエム）」で表現し、それらをグループ内で共有し合いまとめる方法

7 国立大学法人宇都宮大学地域デザイン科学部 地域プロジェクト演習の実施

- (1) 目的 国立大学法人宇都宮大学地域デザイン科学部において、同部に属する3つの学科（コミュニティデザイン学科・建築都市デザイン学科・社会基盤デザイン学科）の学生が混生でグループを編成し、地域プロジェクトパートナーと呼ばれる自治体などと連携しながら、その地域が抱える課題の解決策を提案するため取り組むプログラムの一種

今年度、那須塩原市を地域プロジェクトパートナーとして、那須塩原駅周辺の活性化をテーマに実態調査・活性化に向けた研究・提言をまとめる演習を実施した。

(2) 概要

- ① 研究内容 那須塩原駅周辺のまちづくり
- ② メンバー 宇都宮大学の複数の学科のメンバーで編成（詳細はP に掲載）
- ③ 研究成果
 - ◆まちづくりビジョンにおけるエピローグ部分を作成した。
 - ◆高校生を対象としたアンケート調査結果の分析及び報告書を作成した。
 - ◆高校生アンケート調査の結果を元に、那須塩原駅に駅周辺の店舗等が分かるような周辺マップを備えたテーブルを作成・設置し、利用者の動向調査等を行った。

8 パブリックコメントの実施

- (1) 目的 ビジョン（案）に対する意見を広く聴取する。

(2) 概要

- ① 実施期間 令和2（2020）年12月23日～令和3（2021）年1月22日
- ② 実施方法
- ③ 実施結果

■ 結びに - 那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定を終えて - 石井先生 or 懇談会コメント -

コメント

《附属資料》

(1) 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会委員名簿

(敬称略)

役職	氏名	所属	分野
委員長	石井 大 ^だ 一 ^{いち} 朗 ^{ろう}	宇都宮大学 地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科	学識経験者
委員	橋本 秀 ^ひ 晴 ^{はる}	自治会長連絡協議会	自治会
委員	小出 清 ^き 子 ^{よこ}	地域婦人会連絡協議会	女性
委員	安藤 義 ^よ 孝 ^{したか}	民生委員・児童委員協議会連合会	福祉
委員	西田 由 ^ゆ 記 ^き 子 ^こ	子ども・子育て会議	子ども
委員	室越 礼 ^れ 一 ^{いち}	NPO法人 なすしおばらまちづくりプロジェクト	まちづくり
委員	三本木 強 ^つ	東那須野地区ふれあい推進協議会	まちづくり
委員	泉 洋 ^{よう} 平 ^{へい}	(一社)黒磯那須青年会議所	青年・若者
委員	田中 利 ^{とし} 幸 ^{ゆき}	那須野が原青年会議所	青年・若者
委員	濱野 将 ^{まさ} 行 ^{ゆき}	県北わかものラボ	青年・若者
委員	大島 小 ^さ 織 ^{おり}	那須塩原市商工会	商工
委員	大倉 太 ^た 喜 ^き 生 ^お	西那須野商工会	商工
委員	柏木 千 ^ち 春 ^{はる}	流通科学大学 人間社会学部 観光学科	観光
委員	村山 茂 ^{しげ} る ^る	駅前広場運営協議会	観光・交通
委員	山本 和 ^{かず} 宏 ^{ひろ}	ジェイアールバス関東株式会社 西那須野支店	交通

(2) 有識者会議メンバー名簿

(敬称略)

氏名	役職等
わくい しろう 浦井 史郎	東京都市大学 環境学部 特別教授
おばし れいじ 小場瀬 令二	国立大学法人 筑波大学 名誉教授
やましま てつお 山島 哲夫	宇都宮共和大学 副学長
まつおか たけお 松岡 拓公雄	亜細亜大学 都市創造学部 学部長

(3) 宇都宮大学地域演習プロジェクトメンバー名簿

(敬称略)

氏名等		所属学部・学科
顧問	おおもり のぶあき 大森 宜暁	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 教授
学生	いただ あか 板田 知佳	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	わかばやし はるか 若林 遥	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	とよやま たくみ 遠山 拓海	地域デザイン科学部 建築都市学科
	まえだ けい 前田 啓	地域デザイン科学部 建築都市学科
	やまや けいご 山谷 慧悟	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科
	なかじま たけき 中島 猛生	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科

(4) 宇都宮大学共同研究メンバー名簿

(敬称略)

氏名等		所属学部・学科
顧問	いしい だいちろう 石井 大一郎	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 准教授
学生		

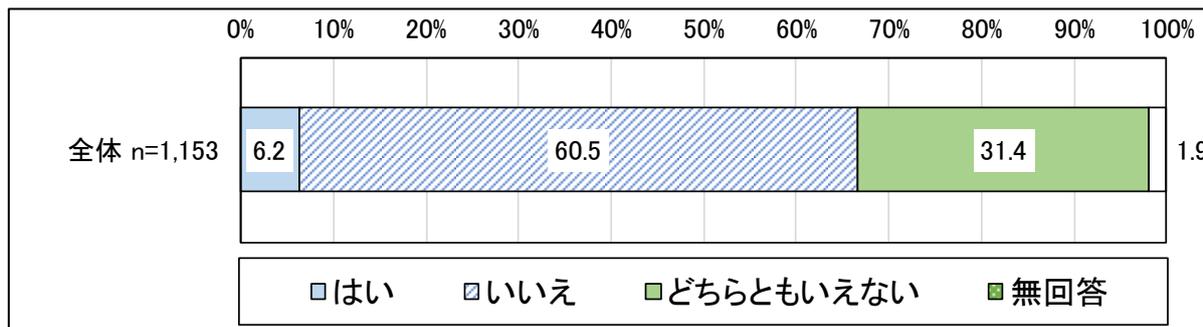
(5) アンケート調査結果【抜粋】

問 【市民アンケート結果】

那須塩原駅周辺の現状をどのように感じますか。あなたの印象や感想に近いものを御回答ください。(それぞれに〇は1つ)

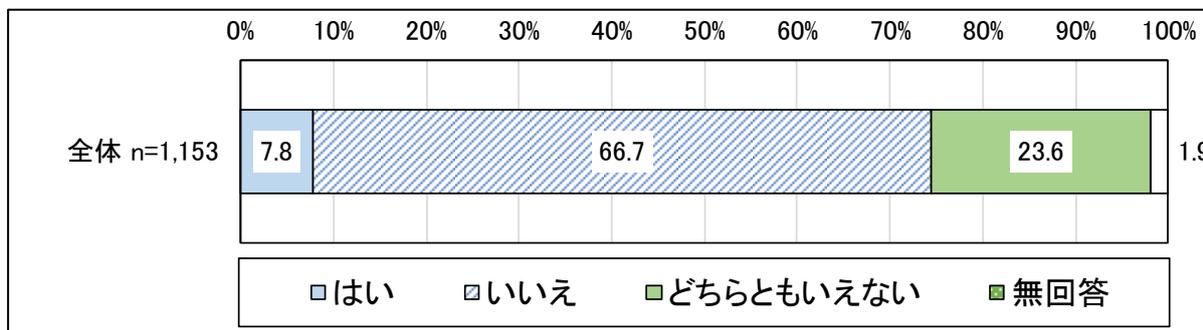
◆全体的に人や地域に活気や賑わいがある

『全体的に人や地域に活気や賑わいがあるか』については、「いいえ」が60.5%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が31.4%、「はい」が6.2%となっている。



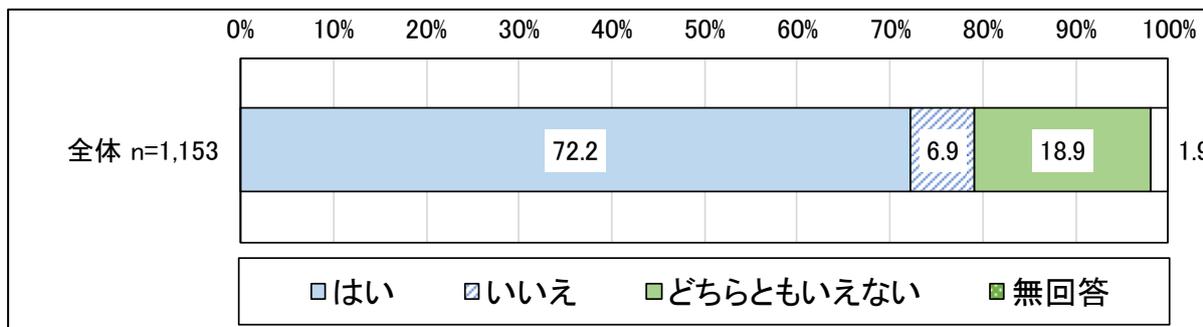
◆利用したいと思う店舗や施設が充実している

『利用したいと思う店舗や施設が充実しているか』については、「いいえ」が66.7%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が23.6%、「はい」が7.8%となっている。



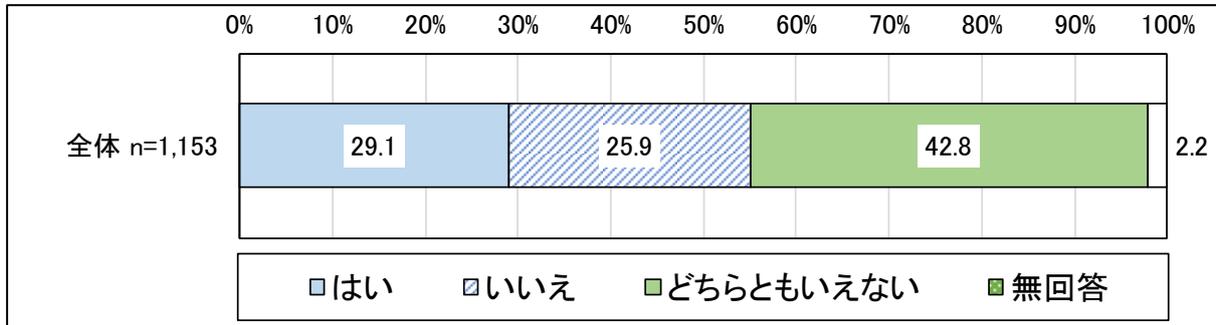
◆駅を降りた時に山並みが見えるなど景観が良い

『駅を降りた時に山並みが見えるなど景観が良いか』については、「はい」が72.2%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」が18.9%、「いいえ」が6.9%となっている。



◆那須塩原らしさや栃木県北の玄関口としてふさわしい雰囲気がある

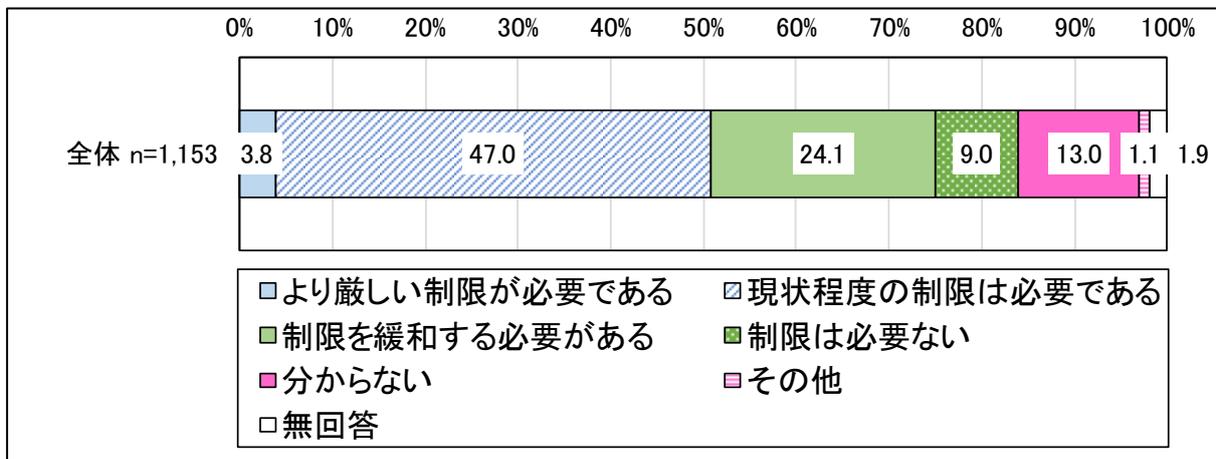
『那須塩原らしさや栃木県北の玄関口としてふさわしい雰囲気があるか』については、「どちらともいえない」が42.8%で最も高く、次いで、「はい」が29.1%、「いいえ」が25.9%となっている。



問 【市民アンケート結果】

現在、那須塩原駅西口の一部の区域には建物の高さ制限（25m）があります。この制限は、景観を保護する役割を果たしていますが、一方でこうした制限が、駅周辺の開発が進まない要因の一つになっている可能性も考えられます。今後、駅周辺整備を進める上で、建物の高さ制限は、必要だと思いますか。お考えに近いものを御回答ください。（〇は1つ）

那須塩原駅西口の一部の区域に設けられている高さ制限が必要だと思うかについては、「現状程度の制限は必要である」が47.0%で最も高く、次いで、「制限を緩和する必要がある」が24.1%、「分からない」が13.0%となっている。



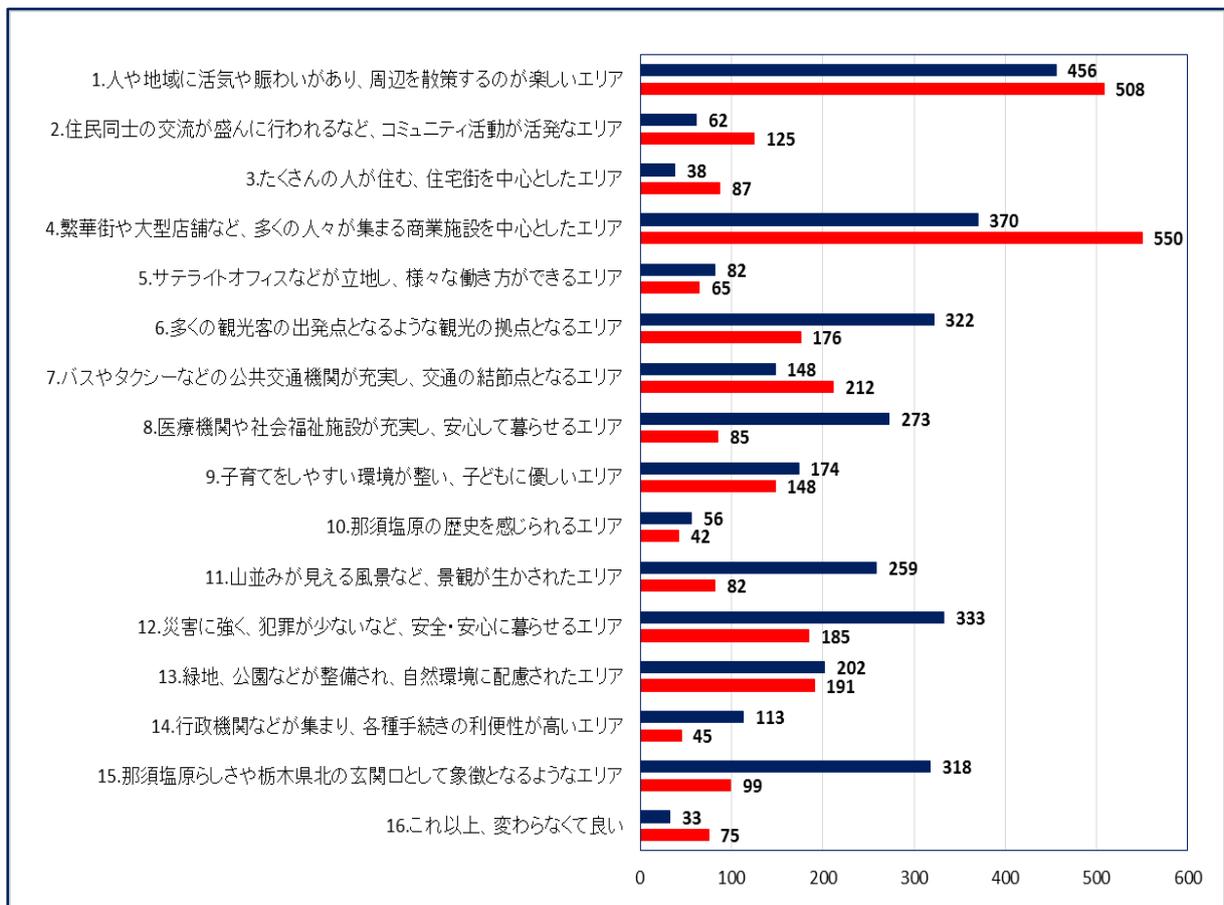
その他：目指す開発による（6件）、景観が損なわれなければ緩和して良い（5件）、条件をつけて緩和（2件）など

問 【市民アンケート及び高校生アンケート結果】

那須塩原駅周辺は今後どのようなエリアになれば良いと思いますか。
あなたの描く将来像に近いものを御回答ください。(〇は3つまで)

那須塩原駅周辺は今後どのようなエリアになれば良いと思うかという調査項目では、「1. 人や地域に活気や賑わいがあり、周辺を散策するのが楽しいエリア」や「4. 繁華街や大型店舗など、多くの人々が集まる商業施設を中心としたエリア」と回答された方は、市民アンケート及び高校生アンケート共に多い。

一方、「7. バスやタクシーなどの公共交通機関が充実し、交通の結節点となるエリア」を望む声が高校生のアンケートでは多いが、「15. 那須塩原らしさや栃木県北の玄関口として象徴となるエリア」を望む回答は市民アンケートの方が多などの違いが表れている。



■ 市民アンケートの回答 (総回答者数 1153 人)

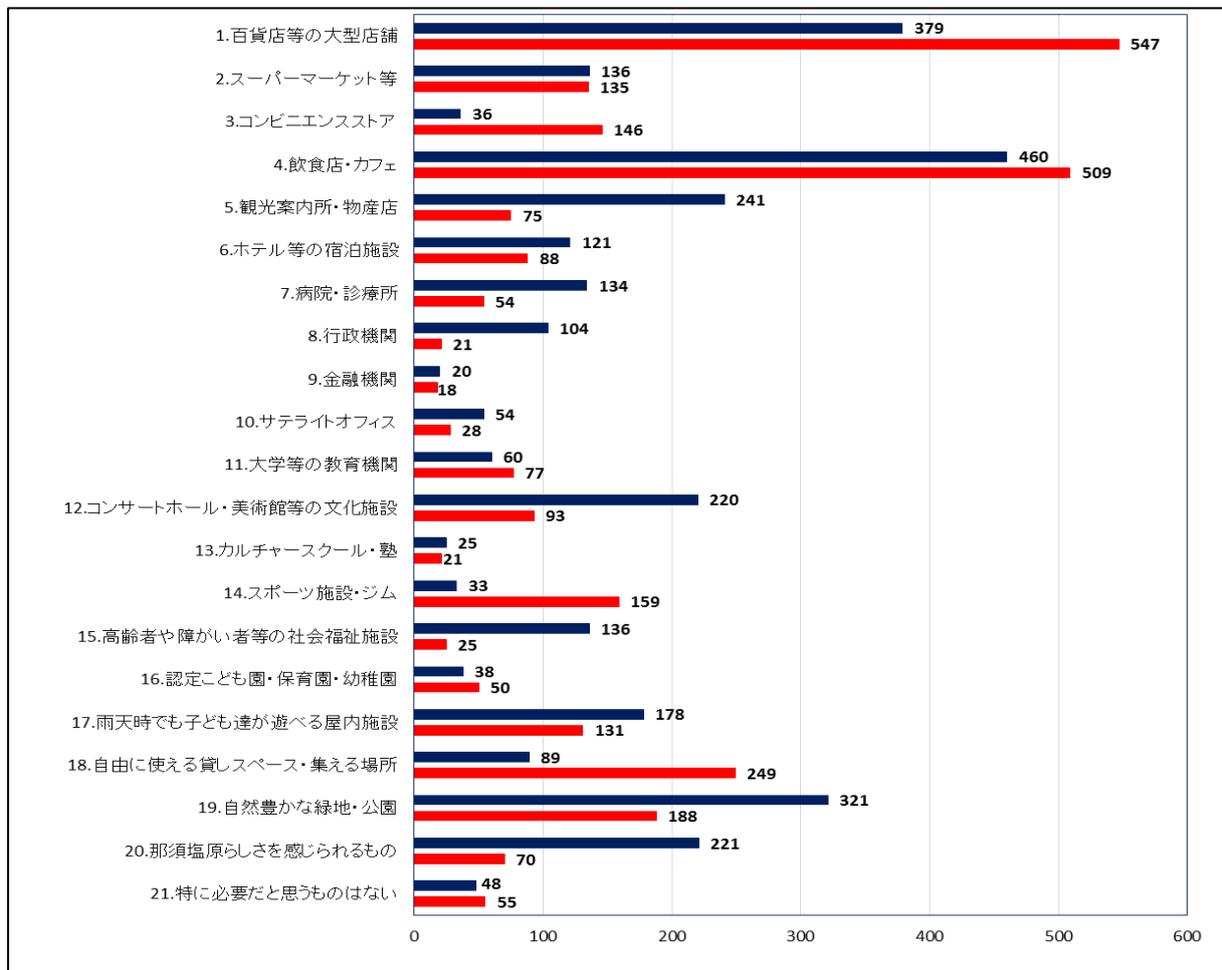
■ 高校生アンケートの回答 (総回答者数 960 人)

問 【市民アンケート及び高校生アンケート結果】

那須塩原駅周辺に必要なと思う施設は何ですか。当てはまるものを御回答ください。
(〇は3つまで)

那須塩原駅周辺に必要なと思う施設は何かという調査項目では、「1. 百貨店等の大型店舗」や「4. 飲食店・カフェ」、「19. 自然豊かな公園・緑地」と回答された方は、市民アンケート及び高校生アンケート共に多い。

一方、「5. 観光案内所・物産展」や「12. コンサートホール・美術館等の文化施設」「14. スポーツ施設・ジム」「18. 自由に使える貸しスペース・集える場所」「20. 那須塩原らしさを感じられるもの」といった項目では、市民アンケートと高校生アンケートの結果において、その違いが表れている。



■ 市民アンケートの回答 (総回答者数 1153 人)

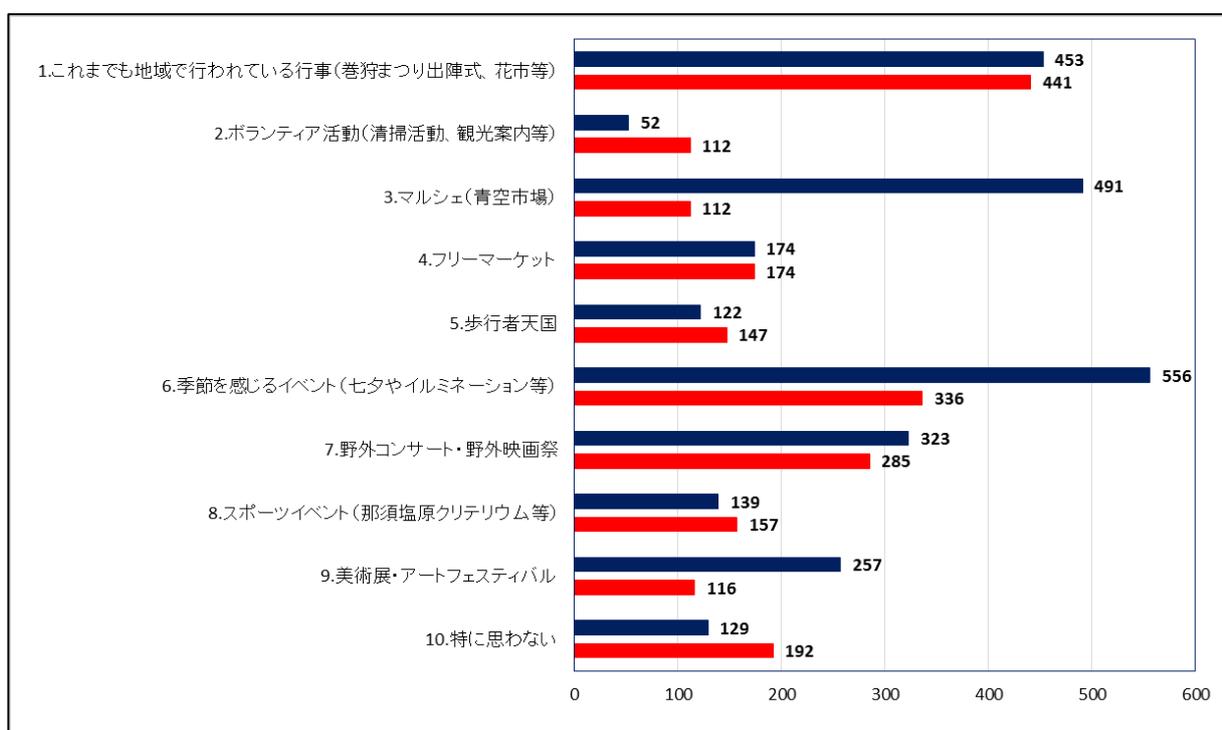
■ 高校生アンケートの回答 (総回答者数 960 人)

問 【市民アンケート及び高校生アンケート結果】

那須塩原駅周辺で、次のような地域活動やイベントが行われている場合（又は行われた場合）参加してみたい、又は行ってみたいと思うものは何ですか。当てはまるものを御回答ください。（〇は3つまで）

那須塩原駅周辺で参加してみたい地域活動やイベントに関する調査項目では、「1. これまでも地域で行われている行事（巻狩まつり出陣式、花市等）」や「6. 季節を感じるイベント（七夕やイルミネーション等）」と回答された方は、市民アンケート及び高校生アンケート共に多い。

一方、「2. ボランティア活動（清掃活動、観光案内等）」、「3. マルシェ（青空市場）」といった項目では、市民アンケートと高校生アンケートの結果において、その違いが表れている。

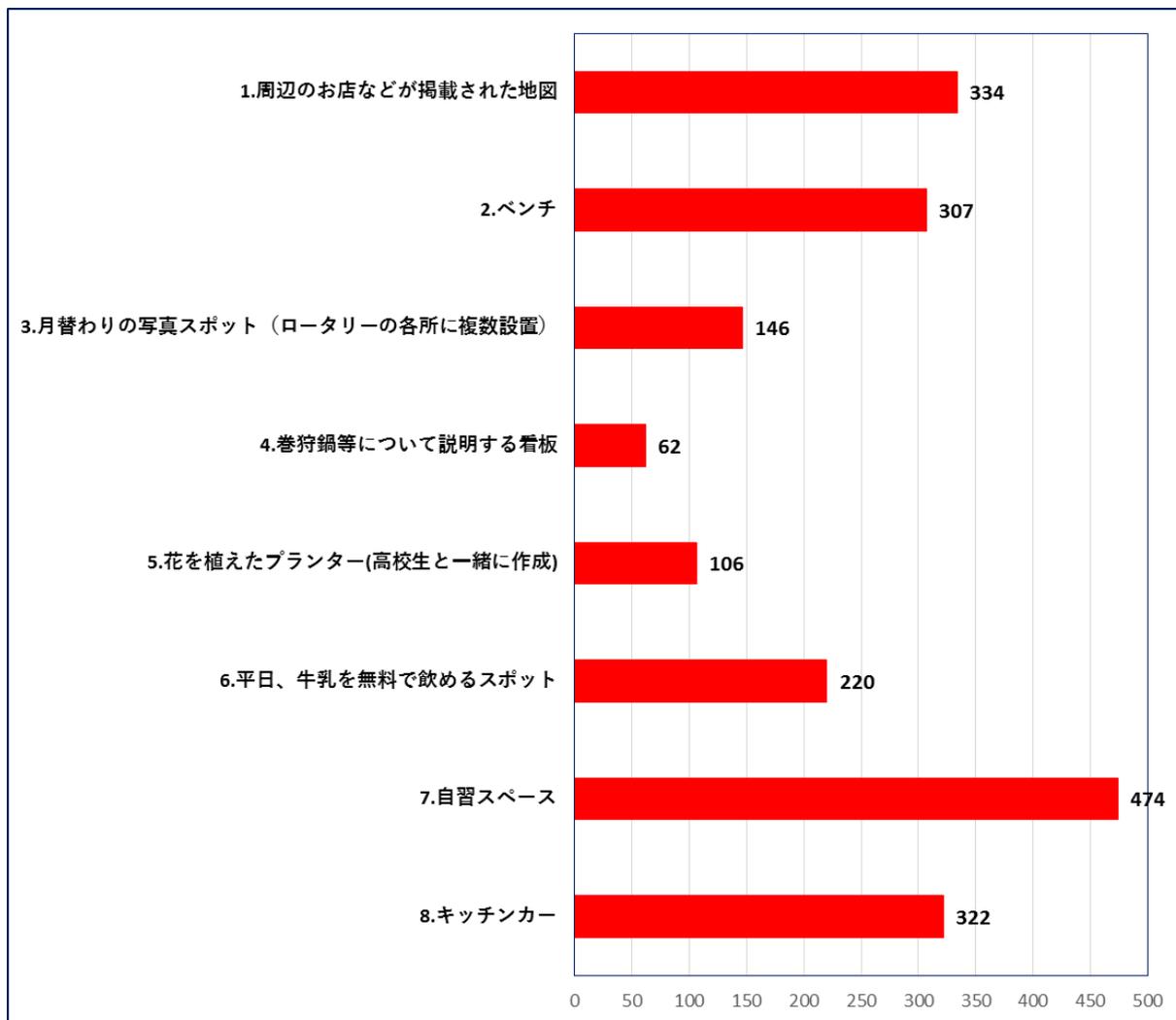


■ 市民アンケートの回答（総回答者数 1153 人）

■ 高校生アンケートの回答（総回答者数 960 人）

問 【高校生アンケート結果】

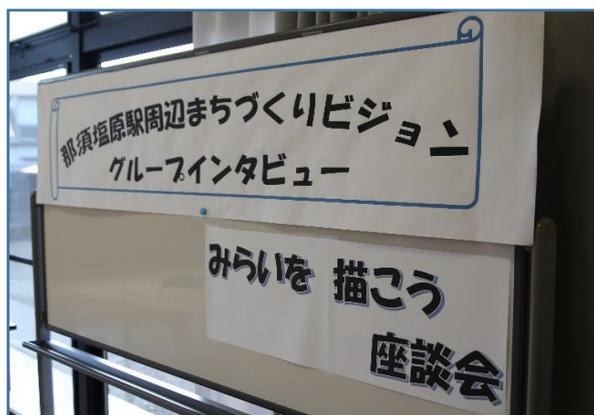
那須塩原駅を使いやすく、愛着が湧く場所にするために、何を設置したら良いと思いますか。面白そうと思うものを回答してください。(いくつでも選択可)

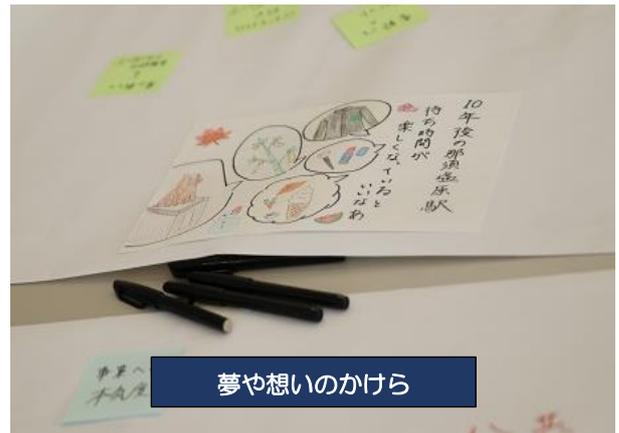


高校生アンケートの回答 (総回答者数 960 人)

※この調査項目は、国立大学法人宇都宮大学における地域プロジェクト演習の一環として、高校生アンケートに設けたものであり、この結果に基づく実証実験として、12月 日から 日までの期間、学生自らが作成した「那須塩原駅に駅周辺の店舗等が分かるような周辺マップを備えたテーブル」を設置し、利用者の動向調査等も実施した。

(6) グループインタビューの様子 (テーマ: 未来を描こう座談会)





NASUSHIOBARA



那須塩原駅周辺まちづくりビジョン

令和3(2021)年3月

発行 那須塩原市

<http://www.city.nasushiobara.lg.jp/>

編集 企画部 那須塩原駅周辺整備室

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社 108-2

TEL 0287-62-9254

FAX 0287-62-7220

E-mail: nsekisei@city.nasushiobara.lg.jp